



Museum Collection Exhibition

Kara-e:

Chinese Paintings and
Medieval Japanese Ink-Wash Paintings

企画展
からえ
唐絵
中国絵画と日本中世の水墨画



寛平6年(894)に遣唐使が停止されたあと、日中間の交流は限られたものとなっていましたが、中世に入ると再び盛んとなり、様々な交易品が日本へもたらされました。14世紀に足利氏が政権を握るとさらに活発になり、多くの文物が中国から輸入され、中には、中国の画院で描かれた院体画や、牧谿ら画僧による水墨画などの名品も含まれていました。これらは「唐絵」と呼ばれて日本で手本とされ、絵画制作の規範となりました。唐絵は、とりわけ足利將軍家をはじめとする武家の間で尊ばれ、やがてそれらに倣った和製の唐絵も多数制作されることとなります。

現在、7600件を超える根津美術館のコレクションの中には、院体画をはじめとする中国からもたらされた作品だけでなく、室町幕府お抱えの絵師らが描いた水墨画など、数多くの唐絵が含まれています。そしてこれらのコレクションは、日本の私立美術館の中では最高レベルといってよい質と量を誇っています。

本展覧会では、当館が所蔵する中国画や日本中世の水墨画の中でも特に重要な、コレクションの中核をなす作品をまとめて紹介いたします。館蔵の名品を通じ、唐絵の魅力を感じていただければ幸いです。

上：国宝 漁村夕照図 牧谿筆 中国・南宋時代 13世紀 下：龍虎図屏風(右隻・部分) 雪村周繼筆 日本・室町時代 16世紀 いずれも根津美術館蔵

2025年 7月19日(土)～8月24日(日) 日時指定予約制
根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM



国宝
ぎょそんせきしやうず もつけい
漁村夕照図 牧谿筆
1 幅 紙本着色
中国・南宋時代 13 世紀

足利將軍家に伝来した「瀟湘八景図」のうちの 1 図。牧谿画は日本で水墨画の手本とされ、のちの画人に多大な影響を与えた。修理後初公開。



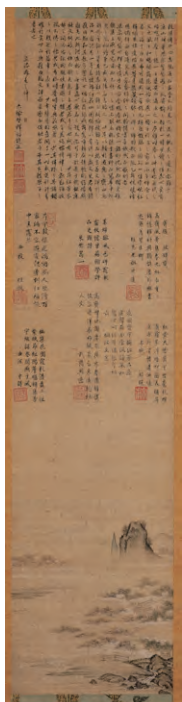
国宝
うずらず り あんちゆう
鶉図 伝 李安忠筆
1 幅
絹本着色
中国・南宋時代 12～13 世紀

室町幕府 6 代将軍・足利義教の所蔵を経た作品。本作のような南宋の院体花鳥画は日本で大変愛好され、のちの花鳥画の規範となった。



重要文化財
こうてんえんい ず
江天遠意図
伝 周文筆 大岳周崇ほか十一僧賛
1 幅 紙本墨画淡彩
日本・室町時代 15 世紀

室町幕府の御用絵師となった相国寺の画僧・周文筆と伝えられてきた作品。中国の山水画に学んだ対角線構図で描かれた、当時の詩画軸を代表する名品。



重要文化財
ひきんざいず
披錦斎図
そうぼしやうきやう
宗甫紹鏡ほか六僧賛
1 幅 紙本墨画淡彩
日本・室町時代 寛正 5 年（1464）

ある人物が鎌倉・円覚寺の少年僧に贈るため、夢に見た美しい書斎の光景を描かせた佳品。京より遅れて流行した、鎌倉における詩画軸の古例かつ代表作例である。重要文化財指定後初公開。

重要文化財
さんすいず けんこうしやうれい
山水図 賢江祥啓筆
1 幅 紙本墨画淡彩
日本・室町時代 15 世紀

京に上り、将軍家の同朋・芸阿弥に師事して中国画を学んだ、鎌倉の画僧・祥啓の代表作。高い完成度を誇り、京から戻って日が浅い時期の作とみられる。





し き かちようずびようぶ
四季花鳥図屏風
かのうもとのぶ
伝 狩野元信筆
6 曲 1 双 紙本墨画淡彩
日本・室町時代 16 世紀



柔軟な筆遣いが印象的な狩野派による行体花鳥画の優品。深い奥行きとともに横への広がりを感じさせる典型的な元信様となっている。



りゅうこずびようぶ せつそんしゆめい
龍虎図屏風 雪村周継筆
6 曲 1 双 紙本墨画
日本・室町時代 16 世紀



画僧・雪村による大作。その画風は極めて個性的で、左隻の虎のポーズや折れた竹の表現などに、雪村特有の誇張表現が明瞭にあらわれている。

関連催事

展示室 1-2, 5 唐絵—中国絵画と日本中世の水墨画—

講演会

「日本が愛した宋時代宮廷の書画」
講師：板倉 聖哲 氏（東京大学東洋文化研究所教授）
日時：8 月 16 日（土） 午後 2 時～3 時 30 分
会場：根津美術館 講堂

スライドレクチャー

担当学芸員がスライドを使って展示解説を行います。
日時：8 月 1 日（金）、8 月 15 日（金） いずれも 11 時 30 分～12 時 15 分
会場：根津美術館 講堂

※ いずれの催事も当館ホームページからの参加お申込み、美術館入館料が必要です。

展示室 6 涼みの一服

同時開催展

暑さ盛りのこの季節、涼を呼ぶ道具を用いて、一服の茶へと誘います。
夏にふさわしい茶道具約 20 件の取り合わせをお楽しみください。

せいじひらちやわん
青磁平茶碗
りゅうせんよう
龍泉窯
1 口
中国・南宋時代 12～13 世紀



夏に好まれる青磁の平茶碗。口が大きく開いていることから茶が冷めやすく、また、淡い青緑色の釉薬により、見た目も涼やかである。

開催概要

展覧会名 企画展 唐絵—中国絵画と日本中世の水墨画—

日時指定予約制

スムーズなご入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。(招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。)

主催 根津美術館

開催期間 2025年7月19日〔土〕～8月24日〔日〕

開館時間 午前10時～午後5時(最終入館 午後4時30分)

休館日 毎週月曜日(ただし7月21日、8月11日の祝日は開館し、翌火曜休館)

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円)

- ・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
- ・当日券(一般1400円、学生1100円)も販売しております。
(ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券の方はお待ちいただくことがあります。
混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。)
- ・2025年7月15日〔火〕午後1時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。
- ・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車 A5 出口(階段)より徒歩8分、
B4 出口(階段とエスカレータ)より徒歩10分、B3 出口(エレベータまたはエスカレータ)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

お問い合わせ Tel. 03-3400-2536(代表)
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材の
お問合せ 学芸部 広報課 所／村岡
Tel. 03-3400-2538(直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へ
どうぞお知らせください。(press@nezu-muse.or.jp)

次回展

企画展「焼き締め陶—土を感じる—」

2025年9月13日〔土〕～10月19日〔日〕

釉薬を掛けずに高温で焼くことで、素地を固める「焼き締め陶」。この素朴なやきものを愛でる感性は、日本人独特の美意識といえます。



左：南蛮横縄四耳壺 ベトナム 16～17世紀

右：備前平鉢 備前 日本・桃山～江戸時代 17世紀

いずれも根津美術館蔵